

あさひの
日常活動紹介
犬塚 博美

通所あさひは、在宅の重症
心身障害者が日中有意義に過
ごすための社会的な活動の場
です。現在40名の方が利用さ
れています。(横地分類A1
が19名、A2が4名、A3が2
名、A4が1名、B1が4名、
B3が1名、B3-1Bが1名、
B4が1名、C1が2名、C3
が1名、D1が2名、D2が1
名、D3-1Bが1名1グルー

プを6人から8人とし5グ
ループに分かれて活動を行っ
ています。個別にじっくりと
関わり、その利用者の気持ち
の高まりに寄り添い、満足で
きるような活動の提供をして
います。
Aさん(横地分類A1)は、
壁や空間に吊るした飾りがひ
らひらと風で動きだすと、視
線を向け見つめます。動きだ
す様子に関心があるようです。
活動では、分かりやすい物の
動きを繰り返し返すことで期待し
て見ることを楽しめるのでは
と考え、紙ふうせんをリズム

横地分類(改訂大島分類)

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、
以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

<知能レベル>					
E6	E5	E4	E3	E2	E1
D6	D5	D4	D3	D2	D1
C6	C5	C4	C3	C2	C1
B6	B5	B4	B3	B2	B1
A6	A5	A4	A3	A2	A1
簡単な計算可					
簡単な文字・数字の理解可					
簡単な色・数の理解可					
簡単な言語理解可					
言語理解不可					
<特記事項>					
C:有意な眼瞼運動なし					
B:盲					
D:難聴					
U:両上肢機能全廃					
<移動機能レベル>					
戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可

職員が紙ふうせんを両手で
つまみ「ふーふーふー」と息を
吹き込んでいくと、Aさんは
頭を持ち上げて見えています。
リズムよく吹き込んだ後に、
大きく「ふー」と吹いて紙ふう
せんを膨らますと、強いまな
ざしで見つめ、絡めている手
指に力を入れ口元に近付けな
がら、じっとしてその音に集
中していました。職員の手の
平に紙ふうせんをのせると再
び注目します。そっと息を吹
きかけて落とすと、手元に転
がってきた紙ふうせんを意識
しながら、肘を上げたり手首
を返したり、絡めた手を離し
てみたり、カサカサと触れた
かと思うとまた見つめたりし
ます。ふっと表情が緩んだ瞬
間、くしゃと手の甲で紙ふう



よく膨らませたり、動きを感
じたりできるように提供しま
した。

せんを押しつぶし、得意げな
顔をしました。Aさんは「ふー
ふーふー」とリズムよく吹き
込む音に関心を持ち、手の平
から落ちて転がる紙ふうせん
の動きに期待し、満足したの
だと思えます。
Bさん(横地分類A1)は、
行ったり来たりする職員の動
きを目でよく追います。また
物が並ぶ様子も期待を持って
見ます。動きの変化に集中し
期待して見聞きできるように、
小さなボールを転がし跳ね
返ってくる動きに注目できる
ような活動を提供しました。
ゆつくりころころとついたて
に向けてボールを転がすと、
Bさんは跳ね返ってくるボー
ルの動きをよく見えています。
また、ひとつ転がすと行方を
追いながら、動きが止まるの
をじっと見つめています。動
きが確かに止まったのを認め
ると、はじめて職員に視線を
向けます。Bさんが視線を向
けてきたらもう一度転がすよ
うにすると、繰り返しされるこ
とへの面白さと、転がり、跳
ね返り、止まるという動きに
興味を持ち集中している様子
がありました。一ヶ月程ボー
ルの活動を続けると、最後ま
で見ることが減り職員に目を
向けることが多くなりました。
見たい気持ちが薄れたようで

した。次にボールが筒を通
って出てくるようにし、転がる
先に段差をつくりました。す
ると、出てくるボールに注目
する様子があり、繰り返し返すと
出てくることを期待し見たい
気持ちが高まっているように
感じました。また、ボールが
段から落ちて転がる時にぐっ
と腕に力を入れて、動きに集
中していました。ボールの動
きが複雑になって、より動き
の変化を楽しめるようになって
たと思えます。

利用者一人ひとりが心から
活動を楽しみ、満足感を感じ
充実したものとなるよう取り
組んでいきたいと思えます。

